

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「知識は本の中にはない。中にあるのは〇〇である。」

「知識とは・・・〇〇である。」ってどういうこと？～

ドラッカーの『創造する経営者』の中で述べている言葉です。

「知識は本の中にはない。」

では、ドラッカーは何を知識としているのでしょうか？

では・・・どうぞ。

「経営管理者は、情報という特有の道具を持つ。経営管理者は人を操ろうとしてはいけない。一人ひとりの仕事について、動機付けし、指導し、組織しなければならない。そのための唯一の道具が、話す言葉であり、書く言葉であり、数字の言葉である。』『現代の経営』

ドラッカーの手にかかると情報も言葉も道具になります。

マネジメントという領域は、組織、事業、使命、貢献、強みなど目に見えないものばかりを相手にしなければなりません。それゆえ情報や言葉という基本的な道具の使い方を意識的に磨くことが大切です。まずは、情報とは何かを考えてみましょう。

「整理して体系化しないかぎり、データは情報にならず、データにとどまる。意味をなすには、体系として把握しなければならない。』『明日を支配するもの』

たとえば、料理のレシピは情報です。これに対して素材の量やカットの仕方や焼く、煮るなどの調理時間や火の強さはデータです。体系とは、目的を持って必要な要素（＝データ）を集め、相応しい位置や順序に配置することです。

無事おいしく料理が出来上がったとき、情報は初めて役に立ったことになります。

その情報は、目的を実現するために十分かを常に問うことが重要です。役に立つ存在でなければ意味がないからです。

「理解されない知識には意味はない」—これもドラッカーの口癖です。情報が役に立つには、知識に転換されていなければなりません。ドラッカーは、「**知識とは能力である**。」と言います。

「知識は本の中にはない。本の中にあるのは情報である。知識とはそれら情報を仕事や成果に結びつける能力である」『創造する経営者』

（「致知」9月号「仕事と人生に生かすドラッカーの教え」より）

つまり・・・料理のレシピは、本の中にある情報と同じということですね。

情報を活かすには・・・**情報を読み解く能力と調理技術が必要です。**

また、料理経験のない者にとっては完全なレシピもあまり役立ちません。技術や道具に関する**前提情報**までレシピには記されていないため**情報の意味するところを完全に理解できない**からです。

高校生の君たちは、この前提情報を得たり経験する時期なのかも知れませんね。

また、私たちは、インターネット・スマホで大量の情報に触れていますが・・・

実はそれは**データにすぎない**のかもしれない。

その**データ**を、体系として把握して、「**情報**」とし、その情報を成果に結びつける「**知識**」にする能力を身につけていきたいものですね。

